

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム オニオンコート(ゆり)	評価実施年月日	平成18年8月1日
評価実施構成員氏名	大谷千古・山中利子・若山美智子・加藤みゆき・佐藤瑛梨香・齋藤千幸子・西科政子・木谷ひろみ		
記録者氏名	大谷千古	記録年月日	平成19年8月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	認知症や要介護状態であっても、共同生活を通じ家庭的な生活環境の下、利用者個々の有する能力に応じた、自立した日常生活が地域の住民の一員として生活支援を受けられるよう配慮し努めて行く。	○	今後も継続していきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	基本理念の「もっと楽しく、もっと美味しく、もっと美しく」を日々、支援の中で意識を強めるように努め、工夫をした支援を提供していく。	○	基本理念を月間目標等に記載し、日々意識できるような工夫している。 又、その理念を盛り込むよう、ケアプラン立案時等討議し、入居者個人の立場に立つことを意識づけしている。 日課を進める時点、ミーティング等で確認と意見交換を行った。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族懇談会、クリスマス会等の行事を通じ、施設の役割等を理解していただける様、意見交換・説明等を行っている。 地域へは広報誌、イベント案内を実施して理解を求めている。	○	コンサート、季節の大きなイベント等は、近隣の住民の方々へ案内をさせて頂いている。 ホームのパンフレット等を見やすい所に設置、自由に見て頂けるようにしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の人との出会いは少ないが、お庭等で会った際は「あいさつ」を気軽に声掛けするよう努めています。	○	運営推進会議を活用し、地域住民の方々と馴染みの関係を保てるよう努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	施設行事等で、ご案内状、声掛け等を隣近所へ行っているが、世代の差があり、実現を努力していきたい。	○	町内会への加入を実現に向けて努めたい。 気軽にホームに遊びに来て頂けるようにしていき、認知症への理解を求める。 近隣の小学校や幼稚園との交流の機会を増やしたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	これからの課題として努めたい。	○	子供SOSの家などへの協賛など

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全体で書き込み、最終的に取り組み強化の部分を把握するよう努めた。前回に比べ、改善点を意識する事に努めた。	○	職員は勿論であるが、常に評価票をみることができる所、訪問者・家族・入居者が手に届く場所に保管し、評価表を活用できるように努めている。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な運営推進会議等でホームの取り組みを報告、参加者よりご意見を受ける等、各立場の方のご意見、評価を活用するよう心掛けている。	○	今後も継続していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	充分にグループホームを理解して頂けていないように思う。まだまだ市町内会へアプローチしていきたい。	○	今後も継続していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修の機会を設け、成年後見制度について学ぶ機会を持つようにしている。	○	今後も継続していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員を対象にした施設内研修を実施している。日々の業務で身体的、精神的共に入居者が健康に日々過ごせる事を、介護に関わる者が意識を強め、ケアに努めている。	○	今後も研修の機会を増やし、知識・意識を強化していく。ことは使い、日常の関わりの中での手助けを行う時の仕草などに充分配慮する事を心掛け接することを意識した。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所希望見学、入所契約時は時間を作り、契約書、重要事項説明書を一項づつ読み、不安、質問点は納得が図れるよう心掛けている。又、連携体制(医療・行事・火災)なども説明を行っている。	○	関係者の希望に合わせ時間を取り、説明の実行、同意を図る努力を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申出窓口を整備している カウンターにご意見ボックスの設置を実施。 又、入居者、ご家族さんからの日々の希望意見等は、その都度検討し意見を反映する事に努めている。	○	お茶の温度、食事の味(濃さ)量等は、希望あった時点から改善へ向けた。 外出への頻度の希望等も対応に心掛けた。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族訪問時を活用し、近況報告、写真の提示等で日常の活動を理解して頂ける様にしている。 金銭については定期的(3ヶ月ごと)に出納帳を明示し送る等、又希望ある際はその都度明示し納得して頂くよう配慮している。	○	外出で(2～3時間)ホームを離れる場合は、家族へ事前連絡を実行、許可を受け入居者の外出を行った。身体の特変時は急ぎに知らせること、又誕生会、行事等も事前に知らせる事を心掛けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申出窓口を整備している。 カウンターにご意見ボックスの設置を実施。 定期的に家族懇談会を設け、実施している。 意見等は苦情報告書、議事録に残し、職員全体が把握する事に努めた。	○	意見に基づき、ミーティング等で全職員が把握し結果等の記録に残し、活用できるよう努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回の職員会議の開催。 改善の提案書を作成し、職員からの常に提案できるようにしている。 又、日常活動、行事、入居者の変化、現状、心の変化等職員が図り得た情報は全員が共有活用に向け、いつも意見や提案を聞くことに心掛けています。	○	今後も継続していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	努めて、入居者の活動範囲が旺盛な時間帯は、職員の数を増やすなど、勤務時間帯の見直しを行った。	○	行事や通院、外出等で、入居者が困る事のないよう、人数配置を考え、必要に応じマンツーマン対応も活用している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員との定期的面談を行い、職員の精神・肉体面のフォローができる体制を作っている。 ユニット毎に職員を固定化し、担当入居者と信頼の関わりが継続できるよう配慮している。	○	今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修会(月1回)又施設外研修会など職員のレベルアップに努めるようにし、又他者参加の研修会の報告書も閲覧できる仕組みを実行。	○	今後も継続していきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区のグループホーム連絡会で年(1～2回)研修会を兼ね、交流の機会を活用。一回でも多く機会を利用出来るよう努めたい。	○	今後も継続していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	福利厚生事業に加盟し、多種のサービスを受けることができる体制を取っている	○	今後も継続していきたい
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得、又、技術・向上の機会として研修等参加の機会を設けている	○	今後も継続していきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	話しやすい環境づくりを行い、こまめな声掛けを支援している		今後も継続していきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記同様に、心の思いを一つでも語って頂き、又ホーム側に対し馴染みをもって話せる関係作りに努めている。		今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や入所を前提に相談を受けた時、現在ホームで出来ることを明確に説明するよう努めている。又、関連する支援センター等も状況に合わせ紹介するようにしています。	○	今後も継続していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの関係ができるまでは急な環境の変化に対し、不安感が生じないよう、家族との連絡等にもこまめに気配りを行い、生活に馴染んで頂けるよう努めています。	○	本人の表情、行動、表現、家族、関係者からの意見情報をこまめに聞き入れ支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活している意識を持ち家庭的な雰囲気を大切にしている。	○	調理、又針を使って作品を作る際など、経験豊かな入居者の知恵を頂いたり、環境の異なる生活を学ぶ事も多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人が希望されている事柄、日常の様子等、こまめに機会を作り、情報を交換できる努力を続けています。	○	今後も継続していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者と家族様が1時間でも共有する機会が多く持てるよう、年1回行事の中に取り入れる努力をしています。本人の誕生日の日へお誘いをする等。	○	入所前から別居であっても、入所することで以前より面会の機会が定期的に可能になる等の事例も増えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居以前より交友関係の方の面会を受け入れる。又、行きつけの美容室へ定期的に家族の協力で出向く等、配慮することを実行。	○	今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の共同生活の中で、気の合う同士の語り合いやゲーム等を通じ、仲間意識を深める支援を心掛けています。認知の差でトラブルに発展することを防ぐ為、職員間の情報の共有に努めている。	○	入居者自身がお互いに理解し合い、支援できるようにしていきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じ支援を継続していくよう意識している。	○	今後も継続していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サポーターが仲介に入り、散歩やゲーム等を取り入れ、利用者同士が係われるよう支援している。	○	行事のための外出や行き先決定をするにあたり、自己決定困難な場合などは家族、Dr、他関係機関の方とも相談している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い、入居前に本人、家族よりこれまでの状態、生活歴を聞き取り個人ファイルとして活用し、入所後も生活変化がありすぎ不安感が大きくならないよう、なるべくこまめに本人の暮らしを把握し支援するようにしている。	○	入居前と同じ家庭家具の使用、今までと同じ枕、座布団等、家庭生活の延長ラインになる様に環境作りを支援している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員担当制とし、より一人一人の状態の把握に努めている。	○	個々の特技、趣味を最優先できるよう努めている。 (散歩の時間、読書、新聞を開く時間、唄の練習等)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン立案の際、本人の望み、家族の思いを含め、又ケアスタッフがモニターリング、カンファレンスの場で意見をのべ、最良で立案できるよう努力しています。	○	事前に本人の現状を担当がアセスメントを行うなど、情報を多く集める事に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	サービス提供の中で、現在の状況に合わない場合は、定期見直し以外でも、カンファレンスを開き、サービス検討、見直しを行うように心掛けています。	○	今後も継続していきたい
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	状況の変化に伴い、カンファレンスやケース会議を行い、検討している。	○	日誌、個別日誌録から日常の変化、要望を把握し、本人のケアプランの立案に役立てている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームとしての多機能性を生かし(ショートステイ等)努めていきたい。	○	ショートステイ、デイサービス等の実施を検討
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を活用し、地域資源との協働に努めたい。	○	運営推進会議の役目を地域の方へ理解していただき、連携を持てる努力をしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	常に意識を持ち関わっています。	○	社会資源を多く活用する事を常に意識して努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	常に意識を持ち必要時は関わりを持っています。 (権利擁護等、今後そうした場面にそなえ努力したい)	○	今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居時に本人又は家族とかかりつけ医をどちらにするか等確認し、同意のうえ受診している。 受診前、現在の状況や変化などの情報を提供し、相談を行いながら実施している。	○	入所以前からのかかりつけ医を希望される時も、本人、家族の思いを第一にし支援しています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科への定期的受診を継続し、受診するにあたっては事前にあDrに状況説明を行っている。	○	定期的に精神科医の往診があり、希望又、状態に応じ受診・助言を受けている。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体移設の看護職員や協力病院に、変化が見られ受診するべきか等(特に夜間)迷った場合、相談が可能で、助言等を受け支援しています。	○	受診時(定期)又、夜間の変調時は相談が可能で実施している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	そうした場面では関係者、家族、病院と連絡をこまめに取りよう努めている。	○	退院を早めることで、リハビリ通院支援をしています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の気持ちなど、話し合う機会を設ける等、今後の課題として取り組みたい。	○	医療機関との密なる連携が必要となるため、連携を図っていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後の課題として、本人・家族の意向を踏まえたうえで医療機関とも連携を図れるよう努めたい。	○	医療機関との密なる連携が必要となるため、連携を図っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住替え時の事例はないが、必要な支援は努めていきたい。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	記録物の管理や、個々の生活を尊重する事、他者の前でプライベートな内容は話題にならないよう配慮している。	○	個室への訪問時はドアノック、掃除等での入室前に本人へ説明、許可を頂くことを行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	外出、日課活動等への参加は本人の意志で決めて頂く様に促しを心がけた。又飲み物の温度、種類なども出来る限り時間を掛け、意志を表出して頂くよう努めている。	○	日常生活の中で、本人がしたい事を決めていただく(共同作業など)等、自発的になれるように声掛け促しをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活リズムを把握し、穏やかな生活を送っていただくことを心掛けて支援している。	○	特に散歩は1対1の対応を実施、疲労時に備え車椅子も持参する事もある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	リハビリエステの導入。 お好みの店に行っていたく他、月2回の訪問理容・美容があり、本人の希望のあわせヘヤースタイルを決めている。	○	衣類の購入時、本人の好みの品が選択出来る様、スタッフと共に買いに行く等の支援をしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	役割を持つことで生活に張りや楽しみと、ADL維持向上のため共に行う様にしている。	○	包丁を使用できる、又食器を拭く事ができるなど、可能な入居者は、ほぼ毎日共同作業に参加されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙される利用者については、危険の無いようサポーターの目の届く所に喫煙場所を設け、ライターは灰皿にひもでつけておき、常に好きな時に喫煙を楽しんでいただけるよう配慮している。	○	家族の思い、本人の望み等は常に対応できるよう努めている。身体上問題ある方の場合Drも交え検討し、安全ラインを説明して理解を求めている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛けしトイレへ誘導している。	○	入居者が発するシグナルを見極め、排泄時の失敗等で落ち込まない様 促し声掛けを実行 (過剰はオムツ等の使用はしない)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個別入浴を実施。時間も満足が出来る様、希望、身体に合った日時内で、シャワー浴、足浴等も組み入れている。 浴室、脱衣室の温度差が大きくなりしない様に努めた。	○	入浴中、職員と入居者間のスキンシップを重んじている(唄、人生暦等語る場にもなっている) 温度調整の一つに扇風機の活用を実行
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	臥床する時間の把握により、声掛けをし、本人希望に合わせて休息をとって頂いている。	○	不眠などある方については必要に応じ専門医師へ受診、相談指導を受け、その人らしい生活パターンの維持に努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	協同または、個別対応でレベルに応じての趣味活動、レクリエーション手伝いに参加されている。	○	母体施設の喫茶や売店、移動販売を利用している。 畑の手入れ・収穫、自室の整理、清掃、洗濯物等、職員と共に日常リハビリを実行。常に本人の意志で参加して頂いている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物自力で出来る様、見守りの中で切符、レジ計算等本人にして頂く様に配慮している。 生活に自信が持てるよう支援する事を心掛け努めている。	○	買物計算時、職員と共に代金を用意し本人が払う等、出来る範囲で社会性が失われないように配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外気浴や散歩、ショッピング等、希望に添うよう支援に努めている。	○	少数で(性格の合う人同士)外食だけを目的に出かける、またおやつを喫茶等で頂く等、年に数回実施。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	団体行動ではなく、個々の身体状況、希望等に合うように心掛けている。 少人数の外出を中心に毎週外出を予定して実行。	○	毎週1回気分転換を目的にショッピングを実施。本人の希望・意志を大切に努めている。 月1回～2回公園、施設見学を少人数で行く等実行。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	帰宅願望のある利用者には、ご家族の方に時折手紙を書いていただくなどの対応をしている。 携帯電話の使用。	○	今後も継続していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人との関わる時間を制限する事なく、本人のペースに合った訪問希望を大切にしている。自室の活用で他者への気遣いを少なく出来た。ささやかなスペースを作り、フロア内でも会話を楽しんで頂ける様に工夫している。	○	時間の制限無く面会を楽しんで頂くよう、本人の意志を一番にしている (家族も同様)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は拘束について理解をしており、椅子、ベッド全てにおいて拘束はしていない。 ベッドの配置を工夫し、又サイドフェンスも本人、家族の希望にあわせ数は最小限の使用としている。(ADL上便利という訴えも受け入れている)	○	身体状態に合ったベッド低床用や椅子の型を選択し、使用して頂いている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	個人の居室内側から鍵は掛けられるが外側からは掛からないように工夫されている。 外出希望があった場合は職員とマンツーマンで散歩を実行。気分が切り替わり、本人が落ち着くまで、共に行動対応。	○	どの部分にも鍵使用はしていない。又、掛けられないようになっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	屋には声掛けや見守りを強化している。 夜には1時間おきの巡回以外にも、訪室し入眠の確認を行い、トイレ覚醒時は、入床まで見守りし軽倒防止に努めている。	○	大きな声が出せない方、認知の低下により、思いと身体が伴わない方の行動や希望を早く把握できるように活用している。 トイレ、ドアに鈴を活用し呼んで頂いている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者のADLに合わせ、はさみの使用やゴミ箱の設置等に気を配っている。	○	個々の能力に合った品物は日常も使用して頂いている。(見守りの中で)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットの報告から重篤な状況にならないための検討、又個人のADLに合った生活環境作りを行うように努めている。	○	安全対策委員会で事例を討議し、多くの意見の中から選択し適切な対応に努めた。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	身体の急変、また事故により対応が求められた場合に備え、マニュアルを基に研修会へ参加(月1回)を心掛けている。	○	骨折、火傷、心肺蘇生の実施指導を数回研修で受けている(年間)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に備えマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を行っている。 近隣の病院、特養施設、消防署の協力を頂くよう協力体制を意識し、消火器等の設置を実行。	○	民家等も近いので、一層の協力をいただける様運営推進会議等で協力を呼びかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ケース個別記録を実行、又日常の身体の変化を観察している。 特変みられるときはケース検討を行い家族へ状態を早めに知らせよう配慮し、理解を頂けるよう努めている。意見交換の実施(家族との)	○	面会時を活用し近況、身体の状態等をお話している。他電話にてお知らせする事を意識して実行。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日定時にバイタルチェックをしており、体調変化を記録に残し、情報を共有し観察している。	○	身体の変化を見逃さない為に、個別ケースの早めの検討。カンファレンス等も活用。 専門医師への受診、相談を実行している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人用の服薬ノートを活用し、現在の薬剤内容(目的用法、副作用)を把握している。飲み込み確認を実行し、状態観察を常に行っている。	○	身体的に飲み込み不可の方は、薬剤の形態を飲みやすいように変更する等の対応をした。 Drと相談を行い検討。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量の把握と、運動・活動への声掛け。 食品・水分とのバランスを考えることを日々実行し、自然排便を心掛けるようにしている。	○	乳製品(牛乳、ヤクルト、ヨーグルト等)をベースにしたおやつも心掛けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔内の洗浄、義歯の手入れを実施。歯ブラシにて残歯の手入れを本人と共に行うようにした。 口腔用うがい液の活用をしている。	○	夜間は専用洗浄剤にて義歯の消毒をおこなっている。 週1回、歯科の往診を活用し、治療必要な方は対応を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の献立に基づき、カロリー計算された食事を提供している。 個別に水分量は把握している。	○	水分、飲み込み不可な方へはゼリー茶にて対応。食事形態の工夫を行い、無理なく摂取できるようにしている。 刻みの場合は本人の好みにも気配りし、了解を頂き行う。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	委員会、マニュアルもあり、予防対策・対応を職員全員が周知している。 予防接種の実施。	○	手指消毒剤を共有部に設置(職員の目の届くところ、安全の為) 緊急時の対応用具を常にまとめ保管している(ノロウィルス発生時用)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理用具を消毒殺菌し衛生管理に努めている。		まな板、フキン、冷蔵庫、テーブルの消毒は実行している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関出入口は手摺りとスロープ、階段の設置を行い、状況に合わせ使い分けが可能。 フロアに椅子、ベンチを置き、身体に合わせ休む、又ゆっくりと身の回りを整えることが出来るように配慮した。		靴の履き替え、訪問者との会話等の際に気軽に利用いただけている(椅子・ベンチ) 鉢物を置き、ハードなイメージを和らげる努力をした。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生花、造花等、季節を感じていただけるように装飾している。	○	入居者と共に季節ごとにインテリア作り、飾り付け、月々のカレンダー作りを実施している。 外からの雑音への気配り、軽音楽を共用部に流す音の調整
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人用・二人用・三人用の椅子をそれぞれ配置している。	○	フロア、リビング等に、テーブル・椅子を区切りする等の活用をしている。 一人で座ってもホッとする安心の場の提供。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、椅子、身の回り品等は本人の好み、馴染みの物を使用して頂き、色(ノレン等)も指定ではなく、個々の好みのカラーで活用して頂いた。		個々の好み、使い慣れた、日常用品を入所時から使用して頂けるよう配慮した。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計の設置。空気洗浄機の設置により、湿度の管理。 換気等に気を配り適切な温度管理をしている。		冬期は乾燥防止対策の一つに、バスタオルを濡らしリビング、居室に掛けるなど、体温調整が独自では不可の方へ声掛け、又定期的に換気、空気入れ替えを行っている。 クーラー・扇風機の活用。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーにより安全な歩行、車椅子移動ができる。	○	トイレの広さに配慮し手すりの取り付け等、車椅子、歩行器使用者の自力で動きやすくなるようにした。 リビングの椅子を状態により選択できるようにした。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	浴室、トイレ、洗面台等は目印になるマスコット、花等で生活に馴染みを持てるようにした。 カレンダーにその日、その日が理解できるよう、日めくりと平行した活用と矢印で誰もが解りやすくなるようにしている。	○	個人のタンスに(パンツ、タオル、靴下、上着)等と名前を記したシールを貼り、極力自分のペースで自室の整理又、必要なものが取り出せる工夫をしている。 カップ等も色分けし個々の名前で区別ができる。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外の花壇を活用し、入居者と一緒に手入れする等、楽しみながら活かしている。	○	花壇の水やり、草取り等、毎日中庭でベンチ、テーブルを活用し、本人の好みで外気にふれることを意識している。 野外食を実施。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 毎月、気軽には使用できない、行くことのない施設等へ少人数のグループに分け出掛けしている。 又、車のみの移動ではなく、公共の乗り物(地下鉄等)の乗り継ぎを体験していただき、社会環境の変化等を知る機会を作るように心掛けしている。(様々な年代、職種の人々との出会いも出来る) 小さいが畑の活用で、季節の変化と野菜や花を育てる事を通じ、外の臨場感を五感で楽しんで頂く工夫に努		